故前會長　名譽會員　工學博士　香村小錄君小傳

君は舊金澤藩士の家に生れ夙に學席を經て東京帝國大學工科大學に學び明治二十五年採鑛冶金學科を卒業し初め農商務省に勤務せしも翌年釜石鑛山田中製鐵所に招聘せられ同所技師長として設備の整備充實に其該博にして卓越せる技術を發揮せらる　蓋し同處は明治の初年外人技師を招聘し政府の力を以てするも尙ほ且經營困難にして中絶の已なきに至りしも君の努力に依り當時本邦唯一の製鐵所として存續發展せしめたるの功　蓋し沒す可からざるものあり　其間明治二十九年製鐵事業視察の爲め歐米を巡歷し歸朝後同處の規模を擴張し明治三十七八年日露戰役に際しては軍需鐵鋼材の供給上貢獻する處尠なからず　爾來同處は益々堅實なる發達を遂げ今日の隆盛を見るに至れり，同四十年東京本店詰となり大正三年工學博士の學位を受く同六年三月田中鑛山株式會社の創立に當り君はその常務取締役に推され又同十三年七月同社の經營が釜石鑛山株式會社に移るや同社常務取締役に選ばれ後同社取締役として更に昭和九年一月製鐵合同成り日本製鐵株式會社の創立せるや取締役として共にその樞機に參畫せり。

尙ほ君は製鐵業調査會　工業品規格統一調査會等に委員として公務に關與し又鐵鋼協議會の創設以來有力なる一員として鐵鋼國策の樹立，鐵鋼業の統制に其蘊蓄を傾注し，本會に對しては大正四年創立者の一人として當初より理事に選任せられ次で大正九年四月第三次會長の重任に就き任期滿了後は前會長として直接間接常に本會を指導しその發展に貢獻せらる殊に昭和七年四月多額の資金を本會に寄贈せられ之に依て香村博士寄贈資金取扱規則の制定を見，鐵鋼の理論又は作業に關する有益なる發見發明又は新案を得たる者を表彰するの途を拓き後進の誘掖　研究の奬勵に對し多大の功果を擧げつゝあるは特筆す可き事とす　君資性溫厚篤實而も常に强き正義と責任感とを以てし學會一方の權威たると共に業界の重鎭として實に前後四十有五年の間終始一貫製鐵鋼業の進步發達に貢獻したるの功實に甚大なりと云ふ可し　偶々昭和十一年秋不幸二豎の侵す處となり病褥にある事年餘終に逝去せらる現下未曾有の時局に際し君の如き斯界の權威者を失ひたるは本邦鐵鋼界の一大損失にして邦家の爲め洵に痛惜に堪えざるなり

訃報天聽に達するや生前の功績を嘉せられ特に從六位に敍せらる亦以て餘榮ありと謂ふべし。